

視察報告書

秋田県仙北市、岩手県盛岡市

令和6年10月8日(火)～10月10日(木)



トーサイクラシックホール岩手ロビー前

松阪市議会 市民クラブ

令和6年10月24日

松阪市議会議長 中島 清晴 様

松阪市議会 市民クラブ 楠谷さゆり

令和6年10月8日(火)から10月10日(木)の間、行政視察を実施しましたので下記のとおり報告いたします。

【Ⅰ】「町並み保存と角館の景観に関すること」・・・(秋田県仙北市)

日 時:令和6年10月8日(火)

場 所:秋田県仙北市角館重要伝統的建造物群保存地区・角館樺細工伝承館研修室1

参加者:東村佳子、吉川篤博、橘大介、楠谷さゆり、中島清晴

担当者:仙北市観光文化スポーツ部 次長 田口聡美 様

・同 文化財課 次長兼課長 山形幸子 様 ・同 参事 畠山豊加寿 様

・同 課長補佐兼文化創造係長 朝水勝巳 様

◆視察テーマ◆

「町並み保存と角館の景観に関すること」

1. 角館重要伝統的建造物群保存地区の保存と活用について
2. 観光客誘致とインバウンドに対する取り組み
3. 観光協会や地元商店街との連携

◆秋田県仙北市◆

平成17年9月20日、角館町(武家屋敷と桜並木)田沢湖町(日本一深い田沢湖など)西木村(農村原風景が残る)の2町1村が合併し誕生。人口は約2万5千人、市の面積は約1100平方km。2018年SDGs未来都市に選定される。年間の観光客数は約360万人。うち角館地区は230万人、さくら祭り期間中の人出は130万人。角館地区は昭和51年、伝統的建造物群保存地区6.9hに選定される。

◆重要伝統的建造物群保存地区◆

江戸時代よりの広い道幅、門構え、樹木、板塀が特徴。中央道路は柵型と呼ばれる交差点をずらした見通しのきかない形が特徴。国の天然記念物の枝垂桜 162 本のうち約半分の 80 本が伝建地区にある。昭和 50 年に文化財保護法が変わり、重要な建物ひとつの保存から連続して町並みが連続して残っている地区を群れで丸ごと保存していく方向になる。第 1 期は京都 2 地区、長野南木曾、妻籠、白川郷、山口萩、秋田角館の 7 地区が選定された。

◆保存と活用◆

① 防災 ② 門と板塀 ③ 個人宅の修繕

歴史的風致を形成している環境を生きたまま保存し、地域住民の住環境を低下させないように生活向上に配慮しつつ、状態を維持する。民間所有のまま市が借り受け(商業化を防ぐ目的)保存活用している。

◆さくら◆

昭和 49 年に「シダレザクラ」152 本が国指定天然記念物に選定される。「ソメイヨシノ」堤のサクラ 400 本は昭和 50 年に国の名勝に選定される。通常 40～60 年の寿命の桜を市職員の桜係が直接手入れをすることで技術や知識や歴史を継承し 100 年近く花を咲かせている。市職員に樹木医を採用することで武家屋敷の樹木も桜もきちんと管理し、次世代に先人達のお蔭で今のサクラがあること、よく護り、殖やし、引き継いでいかなければならないこと、愛護意識を醸成することをつないでいく。

◆角館の観光客数と目的◆

昭和 44 年桜見 30 万人。昭和 49 年武家屋敷一般公開、シダレザクラ天然記念物指定 55 万人。昭和 50 年堤桜並木国の名勝指定 52 万人。昭和 51 年武家屋敷重伝地区指定、樺細工国伝統的工芸品 70 万人。昭和 59 年電柱撤去 108 万人。平成 9 年秋田こまち新幹線開業 218 万人。平成 14 年松竹映画ロケ地 227 万人。平成 22 年 258 万人。平成 23 年東日本大震災 148 万人。令和 2 年コロナ禍 20 万人。令和 5 年 135 万人と観光客数を増やしている。

◆仙北市の観光客数宿泊者数◆

平成 29 年 513 万人で、宿泊者数 51 万人うち外国人 32 千人。令和 5 年 360 万人で、宿泊者数 45 万人うち外国人 25 千人。仙北市は海外からのお客様の農泊先進地で台湾からの

お客様が1番多い。農家民宿数は平成27年は32件で令和5年は35件、令和元年の宿泊者数は13360人、うち外国人2554人で令和5年の宿泊者数は17771人、うち外国人3283人と増加傾向にある。

◆農家民宿への宿泊を伴う国際教育旅行の実績◆

15の国38の団体、約1500人。コロナ禍はオンラインツアーを実施した。

◆仙北市の取り組み◆

地域協議会である農家民宿に旅行業の資格を取ってもらい、直接魅力発信できるようになり、旅行会社としても活動、海外旅行社からの現地手配等が可能となる。英語対応可能な地域おこし協力隊がスタッフとなり、メールの対応、来日してからの対応を担当している。また、多言語対応(言語が影響しない)動画をたくさん制作し配信、名刺にQRコードを記載している。コロナ禍には現地事務所機能をタイと台湾に委託した。市が農家民宿にデジタルインフラ整備し強いWi-FiでリアルなSNS発信に対応した。SNS発信は予算を掛けて事業者に委託し、外国人の心にささる武家屋敷通りのことなど積極的に進めている。

◆所感◆

インバウンド事業はデジ田予算3年間で4000万円規模を使い、整備を進めるかたわら、統計を取り、分析し、次はどこに力を入れるかを見極める努力や、情報発信と受け入れ態勢整備の充実に力を入れているところは、松阪市でもぜひ、取り入れていきたい取り組みと感じた。我が郷土の宝、先人からの財産を市を挙げて、住民とともに未来にしっかり繋いでいく、強い意志を持ち、取り組んでいるところをぜひとも見習いたい姿勢であった。人口規模に左右されず、市として未来に何を残すか、住民との密な連携など大切な事を学んだ。

【Ⅱ】全国市議会議長会 研究フォーラム

開催日:令和6年10月9日(水)・10日(木)

場所:岩手県盛岡市 トーサイクラシックホール岩手(岩手県民会館)

第1日目(10月9日)

テーマ パネルディスカッション「主権者教育の新たな展開について」

コーディネーター・・・井柳 美紀(静岡大学人文社会科学部 教授)

パネリスト

- ・ 土山 希美枝(法政大学法学部 教授)
- ・ 越智 大貴(一般社団法人 WONDER EDUCATION 代表理事)
- ・ 渡辺 嘉久(読売新聞東京本社 教育ネットワーク事務局)
- ・ 遠藤 政幸(盛岡市議会議長)

◆報告内容◆

① 土山 希美枝(法政大学法学部 教授)からの報告

地方議会が直面している課題として、投票率の低下や無投票選挙の増加、議員の性別や年齢の偏りなどが挙げられた。これに対し、議会に対する市民の関心を高め、理解を深めるために「主権者教育」の推進が必要と強調された。具体的には、議会が主体となって行う出前講座や模擬議会などの取り組みへの支援が重要であると述べられた。

② 土山 希美枝(法政大学法学部 教授)からの別の視点の報告

「主権者教育」は若者に対して魅力的な取り組みと見える一方、議会が「主権者教育をしている」と称することに対しては慎重であるべきとの意見が示された。特に、政治的関心の低下や議員のなり手不足がある中で、真に若者の心を捉える教育が求められている。

③ 越智 大貴(一般社団法人 WONDER EDUCATION 代表理事)からの報告

若者は関心がないわけではなく、参加しても意義を感じられないことが問題と指摘。議会は、若者が「自分の意見が反映されるかもしれない」と感じられる場や交流の機会を増やすべきだと強調された。また、学校現場において政治的中立への過度な配慮が見られるが、これは学校が悪いわけではないと述べ、学校でもリアルな政治に触れやすい環境づくりの必要性が語られた。さらに、政治家との交流も子どもたちの政治意識の育成に重要であるとされた。

④ 渡辺 嘉久(読売新聞東京本社 教育ネットワーク事務局)からの報告

若者が無関心ではなく、参加しても価値を見出せない状況を踏まえ、何が投票行動を促進するのが議論された。特に、政治が社会を変える力を持つと信じることが重要であり、変化を期待する人は、そうでない人の3倍投票に行くというデータが示された。政治家は、政権交代や政策実現を通じて未来を変えていく責任があると述べられた。

⑤ 遠藤 政幸(盛岡市議会議長)からの報告

次世代を担う高校生が、選挙や政治、さらには身近な地方行政への関心を高めることが重要であると強調された。高校生議会や、議員と高校生が交流する場を設けている取り組みが紹介された。

所感(1日目)

パネリストによる多角的な議論が展開された。「主権者教育」に対して一部否定的な意見もあったが、全体的には賛同が多く、議論は進行した。共通して認識されたのは、「若者は無関心ではなく、参加しても価値を見出せない」との意見である。対策として、議員との交流、子ども議会、出前講座などが提案された。

また、投票率向上のために何が投票を促すのかについても議論され、政治が社会を変えることができると信じることが重要であるとの指摘があった。データでも示されたように、変革を期待する人の方が投票に行く可能性が高い。政治家は、政権交代や政策実現を通じて未来を変える姿勢を示すことが求められている。投票率の低迷は、参加しても価値を見出せないと感じている若者に、政策が実現し、未来を変えることができると示す必要があると感じた。

第2日目(10月10日)

テーマ 課題討議「主権者教育の取組報告」

コーディネーター・・・河村 和徳(東北大学大学院情報科学研究科 准教授)

事例報告者・・・ 白鳥 敏明(伊那市議会前議長)、

・ 諸岡 覚 (四日市市議会議員)(83代議長)、・ 服部 香代(山鹿市議会議長)

◆事例報告内容◆

① 河村 和徳(東北大学大学院情報科学研究科 准教授)

「地方議会と主権者教育」について、学び合い、開かれた議会にするため、広報やディスカッションが必要。身近なところで政治を学ぶ場を作る。参加・経験の場を作る必要がある。一方で模擬投票に偏りすぎた教育や政治的中立の足枷が存在する。議員と会うだけでも意義があり、発達段階に合わせた議員とのコミット総合学習的な発想が必要である。

② 白鳥 敏明（伊那市議会前議長）からの報告

平成30年の伊那市議会議員選挙が無投票になり、議員のなり手不足に危機感を抱く。全議員参加の「魅力ある議会づくり検討会」を設置し「高校生の議会傍聴」と、「高校生との意見交換会」等の企画を決定した。高校生による「議会請願」を提出し、市議会において全会一致で採択した。今後の展開として中学生へも広げて「キャリアフェス」を開催している。

③ 諸岡 覚（四日市市議会議員）（83代議長）からの報告

四日市市議会では、正副議長立候補者による所信表明（公約）を行い、公約から「ワイ！ワイ！GIKAI」が始まった。各常任委員会が地元の高校・大学に出向いてテーマをもとに意見交換会を実施。その後「高校生議会」を開催し、テーマごとに委員会に分かれ意見交換を行い、本会議場で意見書の採択を行った。

④ 服部 香代（山鹿市議会議長）からの報告

山鹿市議会の課題として、「開かれた市議会になっていない」、「住民の理解と関心が得られていない」、「なり手不足」があげられ、議員のスキルアップが必要となり、小学校10校で「シチズンシップ教室」を開いた。議論して最終的に意見を集約していく経験を子どもの時から経験しておくことが大事であり、絵本「ポリポリ村のみんなしゅしゅぎ」を使い、ギカイのことを知り、自分で判断する力をつけていく取組を行った。議員自身も自分の言葉で語り取り組むことが重要であるとしている。

所感（2日目）

コーディネーターによる提案があり、今後の提言として、地域の企業や団体と連携することや、政党色を薄めたフラット方の政治塾、女性のための政治塾、小学生や中学生に広げたワークショップの開催など、経験させることや継続が大切であると感じた。松阪市としても、これまで作成した「議会のトリセツ」の改定や、子ども議会の開催など、「主権者教育」を進めていかなければならないと感じた二日間であった。



【仙北市角館樺細工伝承館研修室 1】



【仙北市角館樺細工伝承館前】



【仙北市角館重要伝統的建造物群保存地区】



【盛岡市トーサイクラシックホール岩手】



【盛岡市トーサイクラシックホール岩手】